

# 新型コロナウイルス(COVID-19)ワクチン 接種後の乳がん検診について



乳がん検診はワクチン接種前もしくは  
接種後 6週間以上の間隔をあけて  
受診されること をお勧めしています。



新型コロナウイルス（COVID-19）ワクチン接種後に、特に接種した腕の脇が腫れる反応性リンパ節腫大が認められる例が報告されています。これは、体内に入ったワクチンに対して反応性の変化が起きているため、通常は時間の経過とともに改善し、特に治療は必要とされません。一方で、通常の乳がん検診でのマンモグラフィや超音波検査では、腋窩リンパ節が明らかに大きい場合、精密検査が必要と判断されることがあります。

そのため、総合保健センターでは乳がん検診を受診される際には、ワクチン接種前、もしくは2回目のワクチン接種をしてから6週間以降に健診を受けられることを推奨いたします。

ただし、ワクチン接種後上記の期間内であっても、ご本人様の意思により検査を受けていただくことは可能です。

**\*画像診断の際の参考とするため、検査前にスタッフにより乳がん検査対象の方へワクチン接種歴および接種部位を確認させていただきますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。**

お問い合わせ先

一般財団法人 総合保健センター 健康診断業務部

TEL : 0574-25-5324 FAX : 0574-25-1934